

幾代会観察会(2022年1月)のまとめ

- ◆日時 2022. 1. 9 (日)
- ◆散策場所 国営昭和記念公園
- ◆ポイント 園内で新春の植物を探す
- ◆散策ルート 西立川口～花木園～花木園展示棟～ハーブの丘～三叉路のダリア園
(昼食)～こどもの森～日本庭園～盆栽苑～こもれびの里～里の農家
～こもれびの里休憩所～みんなの原っぱ～西立川口
- ◆参加者 太田さん、須崎さん、武藤さん、羽深さん、浅井さん、土方さん、岡さん、
越前の8名、下見1月5日 4名

みんなでニッコリ集合写真



◆感想

最後に西立川駅で皆さんから聞いた感想は、とても丁寧なガイドをして貰えて良かった。
セブンスウカ思ったより小さかったが見られて良かった。

スズカケノキが良かった。

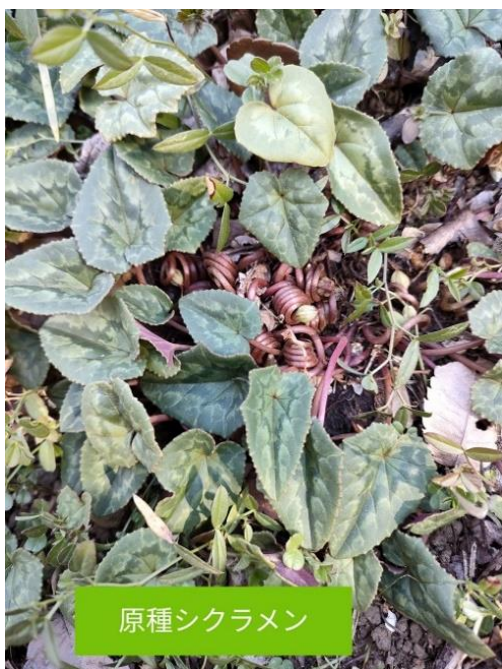
沢山のいろんな木があって面白かった。

いろいろ教えて貰い、あり過ぎて感想が言えない。

2022年寅年のスタートはお天気に恵まれ、岡さんの名ガイドで観察会が出来て良かった。

◆1月の植物観察会のポイント2点

●原種シクラメンの生きる知恵



原種シクラメンは同じ「シクラメン」という品種には変わりませんが、クリスマス頃からよく室内で育てている園芸用のシクラメンの野生種です。園芸種のシクラメンとは違う証拠に、この原種シクラメンには写真のように丸まった花茎が有り、クルクルとした花茎の姿が、なんとも可愛いです。原種シクラメンとは、品種改良されていない野生のシクラメンで、実際に花木園の展示棟前で見ると園芸種のシクラメンよりも葉が確かに小ぶりのサイズです。

ここではピンクや白の花が10月から11月頃に咲き観察した1月は種の状態でした。

シクラメンの名前の由来は、ギリシア語の「キクロス」という言葉からきています。

キクロスの意味は、「旋回」「らせん」という意味

で、英語でいうところの「サイクル」つまり「円」という意味から、シクラメンという名前になりました。

この花茎のクルクル丸まった様子が名前の由来で、原種シクラメンの特徴の一つです。

(花茎がまかないタイプの原種もあります)。

原種シクラメンは花茎がまるまることで鳥に食べられたり、とても乾燥する過酷な環境を生き抜くために種を守っていることが分かります。

種の部分をクルクルと花茎で巻いて保護することで、しっかり種が熟してから地面にこぼすことができます。

過酷な環境を生き抜くために勝ち取った素晴らしい性質です。(ちなみに、園芸種のシクラメンの花茎がクルクル巻いていないのは、園芸用のシクラメンの品種改良に使われている原種がまかないタイプのシクラメンだということです。)

●セツブンソウの花の知恵

木漏れ日の里で咲いていたセツブンソウは、地下にある塊茎から、落ち葉をかき分けて、茎を伸ばし、大きな切れ込みがある苞葉の先に2cmほどの白色の花をつけます。



5枚の花弁の様にみえるのがガク片で、白く透けてみえて美しい花です。

ガク片は、5枚が基本で6枚以上の花もよくあります。

花弁は、花芯周辺にあり雄しべのように見える黄色の部分です。

良く見ると花弁は筒状で、先端が2～4本に分かれていて蜜腺があり、筒のくぼみに蜜が入っています。

花弁の内側には、多数の青紫色の雄しべがあり、さらに中心に2～5本のピンクの雌しべが見えます。

セツブンソウは、2種類の受粉形態を持つと言われています。

蜜を分泌してハチを呼ぶ虫媒花と同時に、花粉を飛ばして受粉する風媒花でもあるそうです。

早春は虫が少ないので、風も利用して受粉を助けています。

開花が進むと雄しべから花粉が出て、雌しべが上に伸びてきます。



◆散策路の植物アレコレ

令和4年の初観察会は岡さんに昭和記念公園のガイドをして貰いました。

まずは西立川口の案内板で本日のルート説明。此処を通りナニナニをみて〜と、コロナでの2年間のブランクを微塵も感じさせない名調子のスタートです。



モミジバスズカケノキ

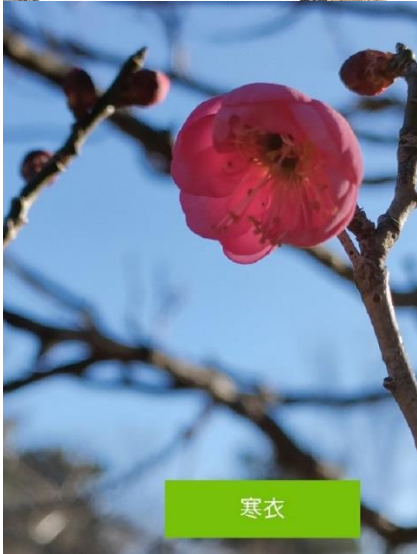


アメリカスズカケノキ

西立川口から眺めのテラス方向に歩くと、まず、スズカケの木。

同じスズカケの木でもモミジとアメリカでは樹皮がこんなにも違います。落葉しているのに、モミジのはがれやすく縞模様の白い樹皮が特に目立ち面白いですね。

モミジは丸い実が2~3個付き、アメリカは普通、1個。



寒衣



サンシュユ

花木園の梅園では足元に「雪中花」とも言われる日本水仙の花が咲き、早咲きの寒衣や鴛鴦がほころんでいました。あらまあ、枝に翼がある、山菜萼もちょっぴり「こんにちは」と黄色い蕾をのぞかせています。

本日は梅の花を求めて探梅ですね。



マンサク



シナマンサク

梅園を過ぎるとマンサクとシナマンサク。マンサクは日本固有種でシナマンサクは中国原産。

まず咲くと豊年マンサクが名前の由来。シナマンサクのほうがマンサクより開花が早い。

確かに蕾がほんのり色づいています。



ハクサンボク

花卉の長さの違い：シナマンサクのほうが少し長い。
花卉基部の違い：シナマンサクは暗赤色で、マンサクは鮮紅色

昭和記念公園は東京ドームが 39 個分も有る広〜い公園、

本当に見どころいっぱい歩ききがいがあります。
綺麗に整備されているように感じますが、予算が削られて草刈りの回数が減っているとのこと。

ドコモやりくりには知恵が必要です

葉に照りが有り常緑のハクサンボクを眺めて右折。

山口県及び九州地方、伊豆、小笠原を原産とする常緑低木でガマズミの仲間。



トチノキ通り



アキニレ

バードサンクチャリーの水どりの池近くでアキニレが薄っぺらな実を無数に付けていた。

陽に映えた翼果がキラキラと綺麗。

「チョット早いけれど」と三叉路の丘の上でお弁当タイム。

陽だまりにシートを広げ、風が本当に無く暖かな最高の観察日和です。

周りにはダリアが植えてあるとのことですが、見たことが無いな〜

園内全体で 56 万本、1000 種とか。



空のすべり台



本当にイロイロ楽しみな植物が植栽されています。



お昼を食べ、空のすべり台や霧の森、ドラゴンの砂場が有るこどもの森を抜けます。

72段の石段を登って太陽の塔に立つと昭和天皇が一番愛したメタセコイアの並木が見渡せます。

整然と二列に並び三

角錐の樹形がすっきりと綺麗です。

昭和記念公園の見どころと言うか一押しというか、箱根造園さんによって手入れが行き届いている日本庭園に到着。

此処の庭園の自慢は広葉樹が多く、ビルが見えないことだと岡さんから解説して貰いました。確かに都内の公園ではトテモ望めないことです。



東屋の椅子に腰かけ小休止。「お琴の音が聞こえて来そうですね」と須崎さ

ん。

本当に満たされた優雅な気持ちになりました。

「松の雪つりの縄は何本？」の楽しい質問に「50本」イエイエ 120本ぐらいとか、凄い～～

目隠し用に植えられた竹やぶを借景に、さながら京都に



いるようです。

盆菜苑では面白い形の柑橘、仏手柑や石を飲み込んだ宮様カエデなどを観察。



シャーレーポピー

花壇の手入れ中です。
少しは長くお待ちください。



ビナンカズラ



みんなの原っぱ

次に木漏れ日の家近くで早くも咲き出したセツブンソウを観察して春を先取り。

花の丘にはシャーレーポピーの苗が400万本も植えられ白いマルチングの養生がして有りました。

5月に一面が真っ赤に成ったら又、来たいですね。

下見で見そびれたビナンカズラの赤い実をみんなの原っぱの横で観察。

それにしても金平糖のようで面白い形です。

特徴のある実の形から別名がサネカズラ。

陽が西に傾くとみんなの原っぱの大ケヤキがシルエットに成り、彼方に富士山も眺められ壮大な景色です。

シンボルツリーの大ケヤキは高さも幅も20メートル前後とか、自然樹形を保った幸せな木です。

みんなの原っぱの下にはプールが有り非常時の6万人分の水が確保されています。

災害に備え、本当に素晴らし〜〜いです。

そして原っぱの売店は木材を使う和の大家と称される建築家、隈研吾さんが手がけるそうです。

タイム誌が選ぶ影響力の有る100人に大谷翔平や大阪なおみと共に選ばれている売れっ子の建築家なので、今から完成が楽しみです。

西立川口で公園の改札の職員にお願いして嬉しい記念撮影をしていただき、ありがとうございました。

今日も一日、大変、お疲れさまでした。

参加出来なかった方は岡さんの名ガイド聞けなくて本当に残念でしたよ。

来月2月13日の観察会は吉野梅郷梅まつりのガイドの下見を行います。

越前記